

(1) 国内誘客の推進と海外誘客（インバウンド）の加速

現状と課題

- 人口減少と高齢化により国内の観光ニーズは長期的には減少することが予想されています。また、近年頻発する自然災害により旅行マインドの冷え込みが懸念されています。そのような中で多様化する旅行ニーズに対応し、ターゲットを絞った観光メニューの開発や情報提供が求められています。
- インバウンド[※]は堅調に推移し、本県の2018年の外国人延べ宿泊客数は約144万人となりました。今後はラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に、アジアからの誘客に加え、欧米・大洋州にウイングを広げることが重要です。

これからの基本方向

- 旅行意欲が高いと言われる団塊の世代や若い女性等をメインターゲットとし、ニーズに応じた様々な情報発信やプロモーションなどの対策を都市圏ごとに実施していきます。
- ウェブサイト等を通じた情報収集が主流となる中、観光客の興味・関心を分析し直接情報を届けるデジタルマーケティング[※]を展開していきます。
- ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピックなど国際的ビッグイベントを絶好の機会と捉え、欧米・大洋州を新たなマーケットとして開拓します。本県のインバウンドの過半を占める韓国はもとより、富裕層の多い中国、香港、シンガポール、団体客が多く訪れている台湾、発展めざましいタイ、ベトナムなどのASEAN諸国を重点エリアとして誘客を促進します。
- 九州各県・大手旅行会社など、九州の官民が連携し、訪日観光客の多いアジアに加え、九州に対する認知度の低い欧米・大洋州にも対象を拡げてニーズを分析し、九州まるごとの魅力を売り込み、世界の観光客から選ばれる九州を目指します。また、国内に対しても、九州新幹線や九州各県における航空路線の新規就航などの機会を生かし、県境を越えた観光ルートづくりなど、広域連携の取り組みを強化します。
- 日本版DMO[※]に登録されたツーリズムおおいたが名実ともに県内の観光振興のリーダーとして観光諸事業を推進するため、その態勢の充実・強化を図ります。

主な取り組み

① 圏域ごとのニーズに応じた国内誘客

- 【九州・中四国】リピーターとしての定着に向けて、きめ細かな旬の情報発信などによる誘客
- 【関西・中部】女子旅、団塊の世代をターゲットとした情報発信や、キャンペーンなどによる誘客

- 【首都圏・東日本】富裕層をターゲットとし、坐来大分[※]等を活用した情報発信と満足度の高い旅行商品の造成などによる誘客

② 国・地域ごとにターゲットを絞った海外誘客

- 【韓国】リピーターとなる家族層や若年女性へSNS[※]等の情報発信などによる誘客
- 【中国・香港】上海事務所と連携した旅行会社へのセールスなどによる高所得者層をターゲットとする誘客
- 【台湾】旅行会社と連携したキャンペーンや企業向け旅行セミナーの開催などによる団体客層をターゲットとする誘客
- 【ASEAN諸国】高所得者及び中間層をターゲットに、SNSやメディア・旅行会社の招請などによる知名度の向上
- 【欧米・大洋州】ラグビーワールドカップ2019などビッグイベントを契機とし、大手旅行会社などとの連携やデジタルマーケティングを活用した誘客
- 【航空路線】海外からの新規航空路線の誘致



海外での売り込みの様子（イギリス）

③ 団体旅行など様々な旅行形態に対応した誘客

- MICE[※]や教育旅行、クルーズ船などの団体誘客の促進
- グリーンツーリズム[※]、ブルーツーリズム[※]など体験型観光の充実



農作業体験（芋掘り体験）

④ 広域連携による観光の推進

- 九州まるごと“インバウンド立圏”宣言[※]（九州地域戦略会議）に基づく九州各県との一体的な取り組みの推進
- 九州各県と連携した広域観光周遊ルート等の確立や航空機、フェリー等の交通路線就航先との連携による誘客対策

⑤ ツーリズムおおいたのDMO機能の強化と地域観光協会等の活性化

- ツーリズムおおいたの広域のかつワンストップの観光案内機能の強化、マーケティング・企画立案機能の確立、自主財源増強など態勢強化
- 地域観光協会、地域連携DMO、観光案内所等の機能強化及びツーリズムおおいたと市町村や地域観光関係者間の連携強化

見直し委員から一言
九州としてのブランド力も大きいので、周辺の県・地域も含めた広域交流の連携が必要です。

目標指標

指標名	年度	基準値	H30年度		R6年度 目標値
			目標値	実績値	
県内宿泊客数(千人)	26	6,101	7,050	7,774	7,830
外国人宿泊客数(千人)	26	400	960	1,442	1,870

(2) おんせん県おおいたの地域磨きと観光産業の経営力強化

現状と課題

- インバウンド^{※)}の増加は、平日における誘客の安定などの効果をもたらしています。他方で、インバウンドの動向は、関係国・地域の政治情勢や経済状況など、他律的な影響を受けやすい側面も抱えており、本県観光産業が持続的な成長軌道を歩むためには、国内外の諸情勢に対応できる力強い産業への構造転換が不可欠です。
- 宿泊業などの観光関連企業の中には、特定の顧客に依存し、新たなターゲットの開拓に躊躇する企業や、経営改善の余地を残す企業が、数多く見られます。
- 本県のおもてなしは観光客から高い評価を受けていますが、観光客一人当たりの消費額は決して多くありません。本県には、温泉だけでなく、豊かな自然とそこから生み出される多彩な食、千年の歴史を持つ旧跡や、各地に残る城下町や伝統芸能など、他地域に負けない観光資源がたくさんあります。そうした魅力を、地域の人々とともに再発見し、多くの人に知ってもらえるよう、さらなる工夫が求められるところです。また、観光客の満足度を高め、滞在時間を伸ばしていくためにも、快適な受入環境の整備に一層努めていく必要があります。

これからの基本方向

- 本県におけるラグビーワールドカップを契機として海外誘客のウイングを広げるとともに、観光関連企業の新たな顧客開拓や誘客の多角化を支援していきます。
- 有効なマーケティングデータの活用やアウトソーシング、外国人材の活用などを促進し、観光関連企業の経営力を強化していきます。
- 誘客の多角化や経営力の強化を通して、本県観光産業を「稼げる産業、変化に強い産業」へと転換していきます。
- 地域の特徴ある観光素材を磨き、地域にある資源を活用した取り組みを積極的に支援するとともに、温泉をはじめとする自然や食、歴史・文化、芸術、スポーツなどを生かした新たな仕掛けづくりに取り組みます。
- 将来の地域・観光を担う人材や、観光の最前線で活躍する人材のスキルアップや知見の向上を図るとともに、観光客の県内周遊促進に向けたネットワークづくりを進めます。
- 国内外の観光客が、安全・安心で快適な旅ができるよう、多言語化の充実など継続的な受入態勢の整備に努めるとともに、災害等の緊急時に対応できる態勢を整えます。

主な取り組み

① 観光産業の経営力強化

- 旅行者の消費動向等の調査・分析に基づく情報発信や経営戦略の推進
- 新たな顧客開拓や誘客の多角化、テクノロジーの活用によるオペレーションの改善などを内容とする経営革新^{※)}の推進
- 地域としての誘客強化や、アウトソーシングを活用した人手不足対策など、複数企業の連携による課題解決の取り組みへの支援
- 事業承継や外国人雇用などの課題に対する関係機関と連携した支援

見直し委員から一言
ツーリズムにおいても人材の確保が課題となっており、働き方改革や労働生産性の向上が必要です。



外国人観光客向けガイド付き釣り体験

② おんせん県ならではの素材磨きと観光消費の拡大

- ラグビーワールドカップ 2019 等のレガシー継承とスポーツツーリズムの推進
- 食や歴史、自然など多様なおんせん県の観光資源を生かした体験型サービスの充実
- ユネスコエコパーク^{※)}、日本ジオパーク^{※)}、くじゅう連山などの雄大な自然や六郷満山^{※)}、宇佐神宮などの歴史的資源を活用した旅行商品の磨き上げ
- 国民文化祭等のレガシーの継承とカルチャーツーリズム^{※)}の推進
- 日本一の温泉を活用した地域づくりと世界温泉地サミット^{※)}のレガシーの継承
- 各地域の観光資源に精通した観光案内所の相互送客に向けたネットワーク構築
- 地域への経済波及効果が高い、地産地消による魅力ある飲食や土産物の販売促進

③ 観光産業を担う人材の確保・育成とネットワークづくり

- 高等学校や大学等と連携した人材確保及び外国人労働者の円滑な受け入れと高齢者、女性等の活躍
- 大学等と連携した高度観光人材の育成支援
- おおいたツーリズム大学^{※)}を通じた、次代の地域づくりと観光を担う人材の育成、ネットワークづくり
- おもてなし研修や生産性向上研修等の実施による観光関係者のスキルアップ



おおいたツーリズム大学の様子

④ 安全・安心で快適な受入態勢の整備

- おもてなし研修等の実施による旅行しやすい環境づくり
- 多言語化、通信環境の改善、公衆トイレの維持管理など旅行者の安全・安心で快適な旅を支える環境整備
- 大規模災害発生時における的確な情報の提供など、緊急時の対応態勢の整備
- 観光客の円滑な周遊促進のための路線バス、タクシー、レンタカー等の利便性向上

⑤ 景観の保全・再生とツーリズム基盤の整備

- 地域独自の歴史や文化を取り入れた魅力ある空間の整備、自然環境を生かした良好な景観の保全
- 無電柱化の推進や展望障害樹木の伐採等による優れた景観の創出・再生
- 観光客へのおもてなしに配慮した公共施設の整備・管理の推進

目標指標

指標名	年度	基準値	H30年度		R6年度
			目標値	実績値	目標値
観光入込客数(千人)	25	17,563	20,150	19,714	20,950
観光消費額(億円)	25	2,072	2,357	2,252	2,600